



K 中 通 信

学 校 だ よ り 10 号
令 和 4 年 1 月 25 日
横 浜 市 立 軽 井 沢 中 学 校

【学校教育目標】『主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします』

- 様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます (知・徳・公)
- 持続可能な社会の実現を目指し、しなやかに生きる力を育てます (体・開)

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/karuizawa/>

「なりたい自分」の姿

校長 佐藤 由利

1月7日、新年最初の登校日に、1,2年生の書初め大会が開催されました。1年生も2年生も、琴の演奏(CD)が流れる中、とても落ち着いた良い雰囲気を作り出されていました。皆さんがこの行事のねらいを理解しながら取り組んでいる様子がよく伝わってきて、見ていて清々しい気持ちになりました。

書初めは、平安時代の宮中における「吉書の奏(きっしょのそう)」という行事がルーツと言われていますが、時代とともに少しずつ移り変わり、現在は、書の上達を願うことのほかに、おめでとう言葉や詩歌、または今年1年の目標や抱負を書くことで、行動を新たにするという意味があるようです。今回の書き初め大会では、課題は決まっていたので、目標そのものを書くことはなかったけれど、それぞれの目標を胸に新しい年への気持ちを一字一字に込めることができたのではないのでしょうか。

1年生のフロアには、今年の目標を一字で表し、解説をつけるという形で書き初めの課題であった「新たな決意」が掲示されています。一方、2年生の課題は「新たな目標」でしたが、フロアの掲示物には各々の目標が文章で綴られていました。1年生は、学習面、部活動、大きく分けて二つの内容が多いようですが、2年生は4月から最高学年になるにあたって、今年は中学校卒業後の「進路」に向けて取り組む年、という意識をもっている人が多いようです。学習に関する目標が多いことに驚きました。3年生、「旅立ちの春」はもうすぐですね。今は我慢の時。体調管理に気をつけてがんばってください。

さて、冬季オリンピックが近づいていますが、先日、報道番組でスキージャンプの高梨沙羅選手のインタビューを見ました。若干15歳でワールドカップを連覇し、すごい選手が現れたなと思ったのを覚えています。ソチオリンピックに出場した時には、金メダル確実と言われながら4位に終わり、次の平昌では、今度こそと言われながら、銅メダル。その後も第一線で活躍し続けているとはいえ、デビュー当初を思うと、決して満足とはいえない状況なのではないか、3回目の北京を目前に、どんなことを語るのだろうと興味深く見ました。平昌後、ゼロからのスタートと思ってフォーム等の改良に取り組んできているという話の中で、「ここ数年、苦しい時期が続いていたとのことでしたが、どんな気持ちでしたか?」という趣旨の質問がありました。当然、「苦しかったです。」という意味のことを言うのだろうな、と思っていたのですが、予想に反して「なりたい自分の姿がイメージできているので、そこに向かっていく過程なのだと思いますから」というような答えが返ってきました。辛くないはずはないのですが、それよりも、目標に向かって一步一步進んでいるという自信というか、充実感のようなものが伝わってきて、あらためてすごい選手だなと思いました。

「なりたい自分の姿をイメージする」。「こうなりたい」と本気で思うところから、どうすればそうなれるか、という考えや行動につながっていく、これは一流のアスリートでも、私たちでも同じです。まずは、一人ひとり目標を思い起こし、来年の今ごろどんな自分になりたいか、を考え、そうなった自分の姿をイメージしてみましょう。1年後の「自分」に向かって、時には立ち止まったり、振り返ったり、やり方を変えてみたりしながら、一步一步前に進んでいく、そんな1年にしていきたいと思います。